



## 座 談 会

# 柏原東高校の五年間を語る

昭和56年7月7日(火) 午後3時半より5時半まで  
本校校長室において

### 出 席 者

校 長 巽 三郎	教 諭 田上 喬一 (一期生学年主任)
前教頭 細木 孝雄 (門真南校長)	” 平工 四郎 (二期生学年主任)
事務長 仲野平八郎	” 島岡 弘道 (三期生学年主任)
教 諭 米田 藤博 (前生指部長)	
” 芝口 達也 (生指部長)	前PTA会長 石川 修一
” 川西 哲 (前進路部長)	P T A 会 長 岡本 嘉男
” 鈴木 正敏 (進路部長)	同窓会会長 郡山 順夫

司会 末川 衛 (教頭) 記録 大西 康雄 (総務部長)

末川 本日は細木先生始め、お忙しいところ、お集まり願ひましてありがとうございます。



本校も五年目を迎えます、一応学校として軌道に乗ったことではないかと思ひますが、まづ草創期のころのご苦労話などから聞かせていただけたらと思ひます。やはり年月というものは、色々なものを風化していくものですので、五年目の一つの節に、こころでふり返って見て、今後の我々の進むべき道の参考にさしていただきたと思ひます。

最初に校長先生の方から何か。

## 草 創 の こ ろ

校長 設立までの前史といひますか、柏原市としてはかねがね府立高校を誘致したいということで、運動を進めておられたんですけども、昭和51年4月15日府会で正式に決定されて、予算がつけられたわけです。

当時私は、池田高校で教頭をやっております、9月の末のことでしたが、急に内示を受けまして、今度大阪府が109番目の高校を柏原市に設立するんだが、そこへ行けということなんです。私は、子供の時分よくこの辺へ魚つりに大和川へ来たことがありまして、なじみの深い土地でもありますし、教員生活の最後に、学校を創るという非常に大事なやりがいのある仕事を命ぜられるということは、

この上もない教育者冥利に尽きることではないかと考えまして、喜んでお引き受けしたわけです。

**末川** そのころ前教頭の細木先生は、

**細木** この時できる新設校が6校ありまして、その準備をずっとやっていたのですが、突然に行けということで、10月1日に兼務発令が出たわけです。



**末川** それからが大変だったんでしょうね。

**校長** 何とか立派に高校を育て上げなければいかんと、熱意に燃えて来たわけです。最初に細木先生とともにこの地を訪れましたのが、私のメモを見ますと、51年の10月18日だったのです。その当時は、ちょうど今の校舎の3分の1だけが、まだコンクリート打ちをやっておりました。運動場もまだ泥んこの状態で、今の完備された教育環境から比べますと、とても考えられもしないような状態で、ということです。細木先生が当時府の高校設立準備室におられまして、建物とか施設のことはいっさいおまかせして、私は人事に専念することができました。何と言っても新設校を創る上で一番大事なのは人である。実はさっき探しておりましたら、こんなノートが出て来たんですけれども、このノートによりますと、たとえば国語だけでも教員候補者、こんなに何ページかにわたって拾い上げました。英語なんかでもこんなにたくさんあるわけです。その中から、ひとつ本当に熱意があって、新設校創りに挺身しようという方を各教科選びまして、是非とも協力をお願いしたいということで、おかげさまで予想よりも上まわる既設校からの経験ある先生、しかも優秀な人材を迎えることができて、二年目もそうです。そういう面で、スタートとしては非常に恵まれたと思っております。

**末川** 本校ができました52年から、1棟方式になったんですが、こういうお話はいつごろから分ったんですか。

**細木** これは、2～3年も前の話やないかと思

います。1棟なら坪数がどのくらいですむとかいう話があって、色々検討して、普通1万坪からいるというのが8千坪ですむ。これからは1棟方式にして8千くらいを基準にするという話ですが、ここは1万3千からこえてましたんで、

**校長** そうそう、のり面あわせて

**細木** のり面あわせて、一番広い学校やなと思てました。建てるて聞いたのは、1年くらい前やないですかな。

**末川** 用地としましては、従来の2棟方式の、そういう計画での土地を考えてたわけですね。

**細木** ここはね、はじめ、2棟で建ててもらはずであったのが、買収に手間どって、早うにできなかったようです。

**末川** ということは1年くらい遅れてるということですか。

**細木** 遅れてるんやろうと思います。はっきりしたことは分かりませんが、2棟建てるつもりで用地の用意をしてあったんですね。まあ結局1棟になってよかったんですね。2棟ではテニスコートなんかとれませんからね。通風とかいう面では具合悪いところもありますけども、ええ面と悪い面とがあるわけですね。

**末川** 最近できる学校は、入試はもちろん入学式すら自前で間に合わないというところがあるようですが、本校の場合、入試の受け付けからできたのですね。

**細木** ここは、ほんまにラッキーやったと思います。

**校長** まったく理想的にいったんです。

**細木** 入学式も運動場でできましたからね。

## 芝山を越えて志願者の列

**校長** 八尾東高校に準備室が移ったのが1月7日、そこで色んな準備事務をやりまして、その間に、この学校の教育方針や私の考え方を各中学校をまわりまして訴えたのですけれども、1月22日の新聞に発表された志願者の数字が大幅に定員をわってしまて、こいつはいかん、せつかく立派な先生方がそろい、施

設も順調にはかどっているのに、肝心の生徒が集まらんじゃしょうがないということで、さらに各校かけずりまわったんです。

先生方も覚えておられると思うんですけども、願書提出の日に、願書を持った生徒が列を組んで芝山をこえて、それを見て誰か先生が、「来ました、来ました、大勢来ました。」というわけで、それまで生徒のいない学校というものは寂しいものでして、1日も早く生徒の顔を見たい。まだ入学が決定していない生徒ですけれども、それが芝山に現われた時には、本当にうれしかったということを今でも覚えています。

**末川** 当時、私どもが兼務辞令をもらいましたのが、確か2月の末ごろで、3月1日からの入試受付事務など色々忙しい目をさしていただいたわけなんですけれども、その当時、一緒にはげんでいただいた先生方、そこらのところいかがでした。

**田上** そうですね、定員がオーバーしてたくさん応募してくれたことは非常にうれしかったですね。ああいう忙しさなら何ぼでも買って出るという気がしましたですね。校長先生が先程おっしゃったけど、たいへん印象的でしたよ。ずらーっと、山をこえて生徒が願書を持って来たんですね。うれしかったですなあ。



## 初年度の思い出

**末川** どことも学校の昔話を聞くと、入学式が出てくるのですけれども、本校は52年の4月8日ですか、入学式兼開校式をやった時、幸いお天気に恵まれて、

**田上** この間、同窓会の時に卒業生が来ましてね、このあたりキョロキョロ、キョロキョロ見てましてね、「先生、思い出すなあ。何にもない、この校舎3分の1だけ、木もない。その前の階段に担任が並んで、校長先生から紹介があって、思い出しますねん。何にも

無かったのに、5年たったらこんなにきれいになるんか。」言うて、びっくりしてました。  
**末川** 第1回目の入学生として、郡山君そこらの思い出を。

**郡山** たしか暑い日でした。立ってるだけでもしんどかったです。パタパタと体の弱い人は倒れてはったんですけども今思うとあんな立派な体育館で入学式のできる後輩たちは恵まれてると思います。こんなにきれい



になって。  
**末川** 米田先生、生徒指導部として新入生を迎えていかがでした。

**米田** 私ね、学校始まるのに生徒手帳もない。こんなは様にならんと思ったんで、まず、入学式に生徒手帳渡せるようにと思ったんですわ。そら、たいへんでした。一つの学校のんマネして作るわけにもいかんで、  
(笑い) まあ、あっちこっちのを参考にさしてもらいましたが、結局2日遅れまして、4月10日には全部配布できたと思います。

それから、必修クラブ活動もできるだけ早くということで、5月の連休明けから一斉に実施したんです。そういう点でも、まずどこの学校にも負けてないと思うんです。

また、各クラスから1名ずつ選んでもらって生徒会設立準備委員会を作り、6月の終りまでに生徒会の選挙規約を、そして9月初めには選挙をやってますねえ。そういう意味合いでは、忙しかったんやけど、学校をようしよう思うて、がむしゃらにしとったから。

**校長** 燃えてました。(笑い)

**米田** 私だけやなく全員燃えてましたわ。そこまでは、一応皆順調よう進んだと思います。ただ、クラブというても何もなしで始めるんやから、えらかったです。第1回の球技大会を7月にやる時、立てるポールもない。

**細木** そうそう。

**米田** それで山崎先生に布施工業やったですか

ね、借りに行ってもらって、その他ソフトボールのベースから何から全部無いんです。これを借り集めて、そんなん思ったら、今はもう極楽みたいですねえ。

**郡山** 先生方も本当にたいへんだったのですね。僕もクラブをしていて、結局3年間グランド整地をよくしたなあという思い出なんです。1年の2学期に生徒会もでき、自分らで生徒の心得を作ったり、また、未熟ながらも自分らでやっていこうという力で文化祭とか運動会とか、既設校にはないパワーも自分らにはあったと思います。まあ今思うと、それは照れくさいようなものですけども。

## P T A の 設 立

**末川** 話が変わりますが、P T Aの発会式を入学式の日に持って頂いたと思うんですが、そこらご苦労話を石川初代会長さんからお話を。

**細木** その前に、お膳立てした方のことを。

**末川** ああ、そうですね。

**細木** 合格者の発表がありましてから、中学校での役職経験などの資料をそろえまして、とにかく4月8日に、会員の皆さんが集まってはるときに、発会せなあかんということで、電話で準備委員をお願いして、それで4月の初めに集まってもらったんです。

その時の委員長が小林さんで、あとで副会長になっていただきました。その他の準備委員も皆さん役員になっていただいて、規約案など審議してもらいました。

じゃあそこから会長さん。

**石川** 実はですね。ちょうど校長先生や教頭先生や事務長さんが国分中学へ御挨拶に見えた時、私P T Aの会長をしていたものですから、副会長の山口さんと校長室におりまして、それで、そのまあ色々新設校の御挨拶がありまして、うちのP T Aの会長と副会長が今年卒業で進学ですねんというところで、



それじゃ是非うちへ寄こしてくれと、(笑い)だから御挨拶にみえた後すぐ国分中学の校長から呼ばれて、それで私と副会長していただいていた山口さんと、一つあんたら行って柏原東高校のP T Aをやってあげてくれと、よその高校に願書を出すなど、(笑い)まあ、こういう話になりまして、実はお世話になりました。

ただ私がP T Aの会長をお受けするという事に決心したのは、人から頼まれたからとか、中学校の校長が是非頼むと言うたから受けたとかじゃないんです。

私は本来P T Aの会長をお受けするようなそんな品柄の人間ではないのですけれど、この学校のできました土地が、私にとって非常に深い因縁がありまして、何とか私なりにできる限りの事はさしていただこうと思ひまして、お受けしたようなことなんです。

## 校 歌 の 制 定

**校長** まあ会長さんには本当に色々やっていただいたのですが、たとえば、校歌の制定ですね。大阪音楽大学の今学長をなさっている田中喜一先生が作詞、作曲が副学長の近藤啓先生、これも石川会長が非常にご縁のある方でして、それで会長さんと一緒に音大へ行きましたね。あれが開校の年の10月ですから、こんなに早く校歌を手がけた学校はほかに無いんです。

**鈴木** その校歌のことですが、新設校の中で一番すぐれているメロディーというんですか、何というんですか、うちの校歌ぐらいいすばらしいものはないと思うんです。まあ、ブラスバンドが上手に演奏するからかも知れませんが、(笑い)これは、どこへ出しても恥ずかしくないすばらしい音楽だと、僕はいつも思っております。



## 施設設備の充実

末川 それから会長さん、いろんなものを貰ってきていただきましたね。

石川 そうですね。古い机とか、腰かけとか、金屏風とか、ああいうふうなものを頂くためには、そら金屏風一つにでも府庁へ10回くらい足を運んでいますからね。まあ、1日も早く既設校に負けない施設設備をということで役員さん方も本当によく協力して下さいました。

校長 それに地域社会の皆さんのご支援ということをつくづく感じましたね。家庭科で什器が全然ない、お皿1つないということで、ライオンズクラブですね、あそこからそれじゃ一式揃えてあげましょうとって寄贈を受ける。それで家庭科の実習ができるというような事もあって、あの当時事務長さんも一生懸命やってくれましたね。

仲野 いいえ私なんか。まあそのライオンズクラブのほかにも、地域社会の方からラジカセやビデオなど御寄贈いただいたり、またPTAの方でも保護者会というものを結成していただきまして施設設備の充実を図って頂きました。まあ本校は、地域社会の方々や、御父兄にかなりお世話になっている、こういうのが現状です。

校長 事務長さん自身も、どこかで古いグランドピアノを、払い下げ受けてきてくれましたなあ、ただ貰ってきたのかな。(笑い)

細木 あれ、ちょっと修繕代払ってね。

仲野 それから先生方に御足労願って、ゴルフの打ちっ放し場でネット貰ってきたり。

細木 会長さんの車お借りして、防球ネット貰いに行きましたな。

仲野 テントも安く分けていただいたり、体育館の照明設備とか、舞台の幕とか、ブラスバンドの楽器とか、色々ありますね。

細木 ウォーター・クーラーも。



## 通学道路

末川 東通用門を入ったところに大きな桶がありますけど、あれも会長さんの屋敷にあったのを運んでいただいたんですね。あれやこれや、お世話になったことが一杯あります。考えてみれば、通学路のことで、随分足を運んでいただきましたようで、その辺のところを。

石川 そうですね、道路の問題、それから関西線の橋脚の撤去ですね。府庁と、天王寺の鉄道管理局と、市役所とを、本当に毎日走り廻りました。なかなか通学路も難しい買収問題がありましてね。修徳学院さんには、運動場を削られて狭くなるという問題があったりして。こんなことで2か月はこの問題に没頭していたと思うんです。

岡本 うちの子も、あの道が出来て、5分は早く学校へ行けるようになったと喜んでいました。何よりも安全ですね。  
校長 堅上への道も拡幅する予定で、土地の所有者のところへ何度も足を運んでいただいたのですけれども。



石川 あれは国の予算までついていたんです。ところが、あの山を売ってくれないんです。当分、もう堅上線はだめでしょうね。

## 体育館落成

末川 ところで、何分やっぱり一番困ったのは、体育館という大きな集会所がないことだったんです。その体育館のできましたのが2年目の秋、落成記念式典を持ちました折の御感想はいかがですか。

石川 PTAとしてですね、来賓をお招きするんだから、パーティをしようやないかと決めたのですが、何しろ20万円しか予算がない。250人分のパーティは無理ではないかというのが最初の実行委員会の話でした。しかし、みんなが力を合わせてやれば、できないこと

はないと、金の問題以前の問題なんですね。

細木 当日出た料理なんか、皆お母さん方の手づくりなんですね。それから食堂の飾りつけなんかもしていただいて。

末川 ああ、あのデコレーション、今でもそのまま残っています。

細木 あの食堂が一杯になりましたね。それに料理は十分余るくらいの分量があった。

末川 あの時、中学校の先生方にも来ていただいて、非常に好評でした。

細木 式典の方も、生徒がちゃんと座っていたし、整然とした立派なものでした。

岡本 あれから半年ほど後に、某高校のある式典に出席したのですが、生徒の態度もパーティも、我田引水になるかもしれませんが、全然ちがいました。柏原東の体育館開きは、実に心がこもっていたと思います。実際良かったですよ。

今度の五周年記念式典も、いま石川会長がおっしゃったように、役員一同心を合わせて学校に協力して、心のこもった式典にしたいと、そう思っています。

## 進路指導部の就職開拓

末川 話が自然と2年目に入っているんですけど、燃えていたのは何も1年目だけじゃなくて、2年目に進路指導部ができて、生徒の進路開拓のために、進路の係の先生だけでなしに、多くの先生方が一丸となって、企業訪問などをして下さったのですが、その御苦心談を川西先生お願いします。

川西 この学校へ来て、一番感じたことは、やっぱり熱気みたいなものですね。みんな兎に角、僕の経験の中でほとんど感じたことのない熱気ですね。



まあ、進路をお引き受けして、結局どうしているやら、一番考えたことは、出口をきっちり押えんとどうにもならないだろうと。で、出口を押えるについて、進学も就職もあるんだけど、まあ就職の方が希望者が多いという状

態、おおよそ見当がつかしましたので、まず会社を回らないかんとお思いまして、先生方にもお願いしたんですが、とにかく生徒をどないかせなあかんとということで、挨拶状を出したのが1,200社、回ったのが800社ぐらいじゃないかと思います。みんなよくやっていただいたと思いますね。その先生方の熱気みたいなものに押されて、何とか格好がついてきたんじゃないかという気がするんです。

細木 2、3人で組をくんで、つぎつぎ行ってもらいましたね。

川西 最初はそういう形でスタートしまして、だいぶ先生方もしんどかったと思いますけれど、あとは一人でということで行っていただきました。それから会社を回る時期が悪く、非常に暑い時で、ちゃんとネクタイをしめ、上着を着てね。

末川 私も正直言いまして、会社訪問というものを初めて経験したのはこの学校です。本当に、どういう形で、どういう挨拶で行っているものやら、戸惑いもあったんですけども、とにかく自分らの手で道を作って行くんやという、その意気込みだけでしたね。

## 厳しかった生徒指導

末川 それから生徒指導の面でも、通学指導をはじめ、勤務時間を度外視して、今だに続けてもらっている訳ですけど、生指の先生その辺の苦労話を聞かしてもらえれば。色々あると思うんですけど。

米田 そうですね。国分駅前の当番が今のようにな形になったのは53年4月からでしたかな。

末川 ちょうど1年後ぐらいですか。

米田 それまでは、生指の中で有志の先生がして下さっていた。本当は全員の先生に当てたかったんですが、朝の早いというのは大変ですね。中には家を毎朝5時半に出て、7時半には国分の駅に立ってくれていた先生もありました。

末川 本当に朝は早くから、夜は家庭訪問で、

米田 そうですね、まあ年に5、60回は行くでしょう。昼から授業の空いている時、かためて3軒ぐらい回るんですけど、中に晩しか

親がいないというのがあって、私、家が御所なもんで、遅くなると帰りが困りました。

末川 学校内での生徒指導はどうだった、郡山君。

郡山 最初生徒指導をペースにのせるためか、生徒を柏原東という高校生らしくするために生徒指導をしておられたように思います。僕らの中には甘い考えの者もいたでしょうし、また、自分らで好きなことをしようと思っていた者もいたでしょう。その中で少しきついなと感じたこともありましたが、卒業してやっぱり自分らの高校の時の生徒指導の有難みを感じている者が、大勢いると思うのです。

米田 毎週集会があったな。月曜日。

郡山 屋上で。よく怒られ、前に立たされました。(笑い)

## 一期生気質

郡山 僕ら1期生は、入学当時から何も無かったでしょう。そこで学校の指導に従っていったというところもあるんですけど、自分のしたい事も意外とできたんです。そこへ2期生が入ってきて、今まで自由にやっていた者でも、下から見られている、自分がもしクラブでもやっていたら、自分らが引っぱっていかんとあかんのだなあという責任感が出てきたんですね。

川西 今も1期生に会うと、よく後輩のために頑張らなあかんというようなことを聞くのだけれど、ただ単に3年間厳しくやられたとかなんとかいう事だけではないと思うね。そこらのところ、3年間の一つの成果やと思うのだけれど。

郡山 現在1期生なら誰でもリーダーになれるだけの行動とか考えを持てるようになっていく。また、僕らが頑張ったら、後輩たちもそれ以上に頑張ってくれるやろと思いますねん。

校長 1期生は良かったということはもちろんだけれど、そう言うと2期、3期がだんだん薄くなるような感じだけれど、僕はそうは思わない。2期、3期もやはり草創期であったことには違いない。

川西 しかし、1期生と先生方とのつながりと

いうのは、ものすごく強いですね。

郡山 そうですね。

川西 僕らの方でも授業に行っていない子も全部知っているし、それから生徒諸君の方も、全然教えたことのない子なのに挨拶してくるし。

校長 僕の帰りがけでも「校長先生、さよなら。」と、その当時の生徒は言ってくれました。今はたまにしか言ってくれません。

川西 だから先生、最初の卒業式の時のあのサイン帳、校長先生のところにあれだけ沢山いったというのは、初めてなのと違いますか。それから卒業式の時に、みんな体育館の出口のところで握手して、こんな子がと思う子がみんな泣いてましたですね。

細木 毎週月曜に集会してたでしょ。屋上でね。怒られたり、校長先生のお話を聞いたり、やっぱりああいう時に、1期生はやらなあかんのやという意識がそれとなしに植えつけられてきてね。それが育って行ったのと違うかな。で、2期、3期となってくると、人数が多くなって、集会するということも、なかなかそれができない。そこで生徒と顔を合わせて物を言う場が減ってきて、だんだん関係が薄くなってきているのと違うかな。

川西 最初の同窓会の出席者、いくらでした。

田上 3百4、50でした。

川西 7割以上も出てくるというのは

田上 ちょっとないでしょうな。

川西 それから、あれだけ卒業生が学校へやって来るというのは、今まで経験したことがないですね。特に土曜日は仕事ができないくらいよく来ましたね。

郡山 それだけ僕らと柏原東の結びつきが強かったと言えると思うんです。

## 続け / 2期生3期生

末川 1期生ばかりの話ですけども、それに続く2期生、3期生ですね。今のお話お聞きになって平工先生あたりは、どういうふうにとらえておられますか。

平工 僕は2期生を担当したし、2期生として本校に入って来ましたね。そうすると学校の体制はできあがっていたんです。それで私自



身をできた体制の中に慣らすことに一生懸命になりました。だから1期生とは違って随分楽をしましたけれど、それなりの努力がいったということなんです。1期生の先生方は僕らよりずっと苦労が多かったと思います。ただし楽しみも多かったんじゃないでしょうか。で、生徒について言えば、1期生と同じように、2期生は2期生として固まっているんですね。だから人なつっこいんですよ。それになかなかいい点があったと思う。僕のみたところ、前の学校に比べて、朝来るの早いですね。それに掃除なんかもきちっとしますね。学校を実にきれいに使ってくれると思うんですよ。だから、僕は、それなりにいいところはあるんじゃないかろうか、というふうに思うんですけどね。僕は2期生がちゃんと胸をはって生きようということを言いたかったんですけど、そういうことをうまく言いきれないまま卒業させてしまっ

た。末川 1期生、2期生というのは、規模の問題だろうと思うのです。2期、3期で生徒が2倍、3倍になっていくにつれて、生徒との結びつきというような感覚は、だんだん薄くなっていきますからね。これは、まあ止むを得ないことだろうと思うんですけども、3期生を担当していただいた島岡先生の方は。

島岡 まあ、そうですね。3期生のことなんですけれども、とにかく3年間一緒にきた生徒ですから、かわいいですね、何と言いましても。

末川 ああ、本当にそうですね。島岡 それとね、この3年間の間、事成らずしてやめていった生徒がだいぶありますね。これなんかは、やっぱり私達の指導がどうであったかなと反省する時あるんです。けれどもまた、やめていった子たちが実社会の中で立派に活躍している姿を見聞きするにつけて、これで良かったんだと考えることもあります。生徒と教師とのコミ



ニケーションといいますか、これを私も大事なこととして考えていますね。3期生のなかにも問題児がおります。おりますけれども、3年間の流れの中で、とにかくかわいいですね。

## 現在の生徒指導

末川 昔の高校は2年次が中だるみで、一番指導に手こずるといわれたのが、本校あたりでは特に新入生の段階にそれが表われてるんじゃないかと思うのですけれど、現在生徒指導の立場におられる芝口先生は、その点どういうふうにお考えになります。

芝口 開校以来3年たちまして、4年目から米



田先生の後を引き継いでやらしていただいているのですけれども、うちの学校の、大きく言いまして、教育的な伝統がすでにできてしまっていると思うんですね。それは何

も難しいことではなくて、一つは先生方が非常に熱心だということなんです。これはもうどの先生方も同感だと思います。特にうちの先生方の熱心さがどこにあるかといいますと、クラス担任がクラス経営とにかく全力を注いでおられる姿ですね。生徒を一人一人実によく見ておられる、本当にすばらしいと思いますね。これはまあ、うちの学校の伝統の一つやないかと思ひます。

それからもう一つは、うちの生徒の気質なんですけれどもね、このあたり中河内いうことなんですけれども……。柄が悪いです。柄は悪いが人間的に悪い人はいません。いわゆる人なつっこいのです。これは1期生から今も続いていると思います。行儀の悪いのは難点ですけども、どんな悪い事しましてもですね、心底みていますと、本当に人間的には愛すべきといいますかね。だから僕はうちの生徒は、何か潜在能力を持ってるんじゃないかと思うんです。

米田 それは言えますね。

芝口 それから4年目5年目というのは、学校



の秩序がやや弛んでくる時なんですね。だから生徒指導の上でも、3年間築いてこられたことを、きっちり守っていかなければ。ここが基本やと思うんです。本校の生徒指導のモットーは、先生の指導に従わないような生徒はつくらないということなんですね。これには、こんこんと説得を続けたり、まあ根気のいる仕事ですが、今あげました三つのことがうちの学校の教育的な、いわば伝統じゃないかと思うんです。

### 頑張る3期生

末川 鈴木先生、進路指導を通しての生徒像の変遷ですか、そういったものについてどういうふうに考えておられますか。

鈴木 僕は幸いなことに、1期生も2期生も3期生も3年次に授業を持ちまして、心情的には平等に見ることができるような感じがします。そこで今年の3年生、3期生ですけれども、教えてまして決して1期生2期生に劣らない。非常に授業態度もよろしいし、よく言うことも聞いてくれるし、少しも1期生2期生に負けないんじゃないかと、こういう感じを持っております。

### 柏原東の将来

末川 そろそろ時間も予定に近づきましたので、ここらで柏原東の今後の展望についてどなたか。

校長 1期生2期生が、進学の面でも、近隣の学校に比べ、決して遜色のない立派な成績をあげ、また、就職の面でも各企業で頑張ってくれているというようなことから、だんだん本校の真価が世間に今、浸透しつつあるんじゃないかと思うんです。まあ、新設校だということで抱えておられた不安も、次第に解消するし、加えて通学に不便であった通学路も整備されるし、これからはいよいよ発展圏に入るんじゃないか。これまでの5年間の基礎づくりをふまえて一段の飛躍を遂げるんじゃないかと、まあ是非そうあって欲しいと思うんです。

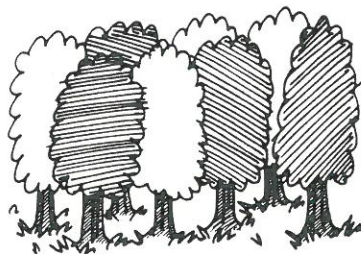
細木 通学路については開校時からの念願でしたね。通学路の開通は、柏原東の輝かしい未来への道が開かれたような気がしますね。

### 継続は力なり

校長 まあ、ただね、岩田教育長がよく言われる「継続は力なり」という言葉があるのですが、やっぱり開校以来の熱意というものが、ずっと続かなきゃならん、続かせることによって道は開けていくと思うんです。

まあ、大変な仕事で、先生方非常に御苦労だし、またPTAにも色々とお世話になると思いますが、大きく完成するまで、ひとつ御苦労を続けていただきたいと、心からお願ひするわけです。

末川 それでは、今お言葉にありました「継続は力なり」ですが、それを今後の我々の一つの心のよりどころと申しますか、一つの目標に、今後とも柏原東の発展のために、皆さんに御尽力いただくということで、今日の座談会を終らさせていただきます。



# 柏原東高校

## 五年のあゆみ

---

